

会議名	第6回港区まちづくりマスタープラン検討委員会
開催日時	平成28年7月28日（木曜日）午後6時30分から8時30分まで
開催場所	区役所9階 研修室
委員	（出席者） 学識経験者委員：中井委員、服部委員、桑田委員、市古委員、森本委員、杉浦委員、羽生委員 区民委員：今村委員、SUH委員、保坂委員、中島委員、堀場委員、大本委員、堀江委員 行政委員：小柳津副区長
事務局	波多野街づくり支援部長・芝地区総合支所長（兼務）、野澤都市計画課長、杉谷土木課長、小谷土木計画担当課長、西川交通対策担当課長、齊藤街づくり計画担当係長
傍聴者	2人
会議次第	1 開会 2 議題 港区まちづくりマスタープラン 改定素案（たたき台）について 3 その他（報告） グループヒアリングについて 都市計画審議会への経過報告について 4 閉会
配付資料	【配付資料】 資料1 改定の検討スケジュール 資料2 港区まちづくりマスタープラン 改定素案（たたき台） 第1章～第4章 資料3 // 第5章 資料4 // 第6章 資料5 グループヒアリングについて（進捗状況） 参考資料1 第5回検討委員会 議事要旨 参考資料2 検討委員会 委員名簿
会議の結果及び主要な発言	
委員 事務局 委員 事務局 委員	1. 開会 2. 議題 港区まちづくりマスタープラン 改定素案（たたき台）について ●第1章～第4章について 各方針の扉のページに載せるイメージ図は、統一感が出せるとよい。 検討する。 方針3の交通の方針図に古川の位置付けがされていない。古川は、方針4の水辺環境として取り上げられているが、散歩道の連続化など、道路・交通の分野でも何か位置付けてはどうか。 今年8月から東京都が舟運の社会実験が始める。舟運については社会実験の動向も見ながら記載内容を検討する。古川は水深が浅いことから、船が入ることは難しいと聞いている。 災害時の舟運の活用については、古川を使って内陸部に船を入れることは

事務局 委員長 事務局 委員	考えられていないのか。 考えていない。 具体的に船はどこまで入れるのか。 船の種類にもよるが、赤羽橋までは入れるのではないか。
事務局 委員	41 ページの住宅セーフティネットの記述は、今のものではイメージがしづらい。もう一步具体的な記述をされた方がよいのではないか。 情報を収集し、加筆を検討する。 古川のポテンシャルにはロマンがある。古川がよくなる可能性があるのであれば、そのことを書いていただくとありがたい。
委員長 事務局 委員長 委員	25 ページの将来都市像に「国際生活都市」とあるが、具体的にはどういったものかの解説を書いていただくとよい。83 ページにある「国際都市」とは異なるものなのか。 9 ページの昔の写真は、どのような順番で並べているのか。 今は古い写真をできるだけ年代の幅を広く集めた状態である。 並びの順番がしっかりこないで、検討してほしい。
委員	49 ページの道路ネットワーク整備について、「駐車施設を充足」とあるが、「充足」という文言はできれば外していただきたい。「駐車場の量をどんどん増やす」ととられてしまうような文言は外した方がよい。下から3つ目の文章の「設置を推進」の表現についても、同様である。
委員長	各分野の方針図に記載されている内容が、整合が図られていないように見える。 各分野を串刺しにして見たときに矛盾点がないよう、注意して確認していただきたい。
委員	●第5章について 新橋周辺の防犯について、六本木と同様に芝地区の目標として記載いただきたい。また、麻布地区では安全安心憲章の写真が使われるとよい。
委員	第5章全体として、地区ごとの細分化されたエリアの話に見えてしまう。隣り合っているエリア同士の関係をどうするかといった視点は必要ないのか。結局のところ、なぜ5つの地区分けとしたのかが見えてこない。ものによってはエリア同士が一体となってということは書かれている部分はあるが。
事務局	広域的な話は、28 ページからのゾーンの区分で説明することを考えている。ゾーニングの考え方から5章への跳ね返りが弱いことは事務局としても感じている。
委員	以前他の委員からも指摘があったと記憶しているが、ゾーンの図と地区別の図との整合はどうなっているのか。
事務局	ゾーンについては、国・東京都レベルの広域的な位置付けをふまえた分け方、地区については地域の身近なまちづくりを進めていくときの分け方として総合支所単位としているため、一致はしていない。
委員長	28 ページの大きな都市構造図の考え方が、地区別方針からはあまり読み取ることができない。そのつなぎの部分を実質させる必要があるのではないか。また、拠点のイメージも地区別からは伝わってこない。
委員	134 ページに「子育て世帯が外出しやすい」とあるが、「子育て世代が親子で利用しやすい」ではないか。 136 ページに芝離宮の記載があるが、芝離宮があるのは芝地区であり、芝地区にも同様の表現が見られる。芝離宮から芝浦港南地区はあまり見えないように思う。 138 ページに「品川駅を起点」とあるが、この書き方だと高輪口ととらえら

副区長	れかねない。港南口のことを考えると、観光ルートに盛り込むスポットは思い当たらない。将来的に目指すということなのか。
事務局	また、運河の歴史を伝える具体的な方法を考えていただきたい。旧協働会館は指定文化財になっており、建物の修復・保存・活用はよいが、「地域の歴史と文化の継承」ということでは違和感がある。あそこは花街だったが、その歴史と文化をどう継承するのか。
委員長	協働会館は、建物自体が木造建築としては古く、歴史的な価値がある。誤解のない表記となるよう検討する。
委員	観光については、芝浦港南地区には水辺があり、夜景は活用できる可能性がある。そこは発掘していきたい部分である。また、歩行者空間の充実との関連も考えていきたい。
委員	新駅は新しい観光拠点になるだろう。水再生センターも観光と関係することから、観光教育的に活用する視点があってもよいのではないかと。海洋大学も海と関連しており、観光の担当とも議論していただきたい。
事務局	138 ページの観光ルートに関する文章について、「観光ネットワーク」という文言は外してしまっても意図は伝わるのではないかと。誤解を与えるような表現は変えてしまうのがよい。
委員長	レインボーブリッジは、見るだけでなく歩いて渡ることも考え、アプローチの整備などについても記述できるとよいのではないかと。表現を検討する。
委員	橋を見るだけでなく観光として楽しむということは、海外でも取組が見られる。このような視点を取り入れられると面白いのではないかと。
委員	品川近辺は桜の名所であったことから、駅から御殿山に抜けるルートを計画したことがある。港区の際ではあるが、そのあたりのことも書けるとよいのではないかと。
委員長	目標や方向性に新駅の記載が見られるが、特性では触れられていない。触れた方がよいのではないかと。
委員	都営地下鉄の泉岳寺駅も今後は変わっていく。それも動きの一つである。125 ページについて、日常の安全安心は是非確保していただきたい。高輪地区はまちが暗い印象がある。その点について何か記載ができないか。
委員	乗り継ぎ利便性の表現では、なぜ青山のところだけ3駅が繋がっているのか。115 ページに説明が見られない。28 ページの都市機能の集積の場所とあわせているのか。52 ページは駅の周辺だけに修正してはどうか。115 ページの記載についても、文章を増やしていただくとよい。
委員	97 ページでは、景観、歴史的文化的環境の維持保全を内容として入れていただきたい。今あるものがきちんと継承されていくことが大切である。95 ページの環状第2号線についての記載は、「強化するために」ではなく「強化して」の方がよいのではないかと。
委員	港区は線路により海側と陸側とが分かれている。陸側と海側との連続性がないことは、歩行者にとって非常に不便である。今は駅を歩いて行くしかないが、人通りも多く歩くのにも危険である。駅のコンコースを使うということでもよいが、東西の行き来の安全性を確保することを是非考えていただきたい。現状は特に高齢者にとって危険である。
委員	方針図2では「地区内残留地区」という名称を使った方がわかりやすいのではないかと。拠点駅のエリア防災といった文言も表現として入れられるとよいのではないかと。
委員	●第6章について（第1章～第5章も含む） 協働体制の図はぱっと見てわかりづらい。もう少し解説が補足されること

委員	<p>が必要である。また、エリアマネジメントのところでは、今の表現では、区民の方を含めて概念を理解することは難しい。</p> <p>協働に関連して、54 ページの緑・水の基本的な考え方の3点目、「多様な主体の連携」そのものと「うるおいのある場づくり」は、直接にはつながらない。別の事項なので、文章を少し整理していただくとよい。</p> <p>55 ページは、「取組みの方向性」に民有地をあげているので、「主な取組」にも民有地の話を入れた方がよい。</p> <p>56 ページの記述では「民有地を保全していきます」とあるが、民有地の緑は区が「保全」ができるものではないため、「保全を促進していきます」などとするのがよい。</p> <p>57 ページでは、「民有庭園などの公開と利活用を図り」「水辺空間の多様な活用を推進」「民間活力を活かし」「協働により進め」などとあるが、これらの活動に対し、誰が主導し誰がサポーターなのかが読み取れるような配慮が必要である。</p> <p>54 ページのイメージ図では「生物多様性に配慮」ということで広場が記載されているが、少し意味合いが異なる。広場は人が活動するための場である。ビオトープは、本来的には広範囲に生態系が維持され人が入っていかないような湿地帯である。日本では小規模の池的な「ビオトープ」がよくみられるため、これを割り切って記載してしまうということかもしれないが、本質的なビオトープとは異なるイメージを記載にするにあたっては、区として慎重に判断されたい。また、レクリエーション機能のメイン要素としてドッグランが記載されているのはどうなのか。他により重視すべき機能や要素があるのではないか。</p> <p>もう一点、景観形成のところには歴史文化を継承する要素が入っていない。要素として何を表現し、理解していただくかには慎重になっていただきたい。</p>
委員長	<p>生物多様性は、シンボリックに書くとする「森」となるか。イメージ図は多くの方が目にするため、誤解を与えないような工夫が必要である。</p>
委員	<p>147 ページは、「地域」と「地区」の使い分けが統一されておらず混同している。再度確認いただきたい。</p>
委員	<p>地区別方針図の1と2については、キャプションがあるとよい。「まちづくりの主軸となる分野に関する図」など、検討いただきたい。</p> <p>方針図の縮尺が統一されておらず、方針図2の中の数字も読みづらい。</p> <p>146 ページのまちづくり条例についての記載では、住民が見たときに「自分たちでできる」という理解にはなりにくいように思う。「皆さんで作れますよ」という一文があるとすんなり読めるとは思うが、実際にはものすごくハードルが高いものであるということに全く触れられていない。もう少し住民に興味を持ってもらえるような工夫があるとよい。</p> <p>3 ページの対象範囲では、ハードとソフトの関係性はどうなっていくのか。対象範囲がわかりづらい。</p>
委員	<p>151 ページについて、芝の家は地域コミュニティの事例である。慶応大学と芝地区総合支所との協働イノベーション学校の方が事例としてはふさわしいのではないかと。また、まちぷろ、あいポートについても記載を検討してはどうか。</p> <p>もう一点、ボランティアの育成・活用という視点も入れてはどうか。まちづくりに関連する学習教育は行われてきており、若い世代が実践できる機会や環境をつくるのが今後は大切なのではないか。</p>
委員	<p>146 ページの最後の項目では、「支援」など、区のスタンスが文中に入ってくるとよいのではないかと。</p>

委員長	<p>3 ページについては今一度検討いただきたい。</p> <p>87 ページは方針図としてとてもわかりやすい。今後の方向性がよく現れている。地域別の冒頭にこういった図を一つつけるのもよいのではないか。検討いただきたい。</p> <p>3. その他（報告） グループヒアリングについて 都市計画審議会への経過報告について</p> <p>4. 閉会</p>
-----	---